不干涉

【教科書 : pp.105-109】

例題 : 次の三つのうち国際法上違法な「干涉」はどれ ?

1. 韓国が「朝鮮半島の日本による植民地支配を肯定するような教科書を、検定で通過させ、通用させるのは許されない。すぐに差し止めよ」と日本政府に要求している場合
2. 米国が「中国国内で少数民族が弾圧されている」として、経済的待遇を中国に不利になるように変更した場合
3. E.U. 各国が「ナチスドイツを賛美し、移民排斥を訴える政党が政権入りしたこと」を理由に、オーストリアとの外交関係を制限する場合

I. 違法な干涉とは何か ?

- 不干涉原則の根拠
  - 国家主権
    - ◇ 意思決定の自由
- 国際法に違反する干涉
  - 国内管轄事項 (裁量事項)
    - ◇ 国内統治に関わる事柄 ?
    - ◇ 国際法の規律との関係
      - 相対性
        - PCIJ : チュニスとモロッコの国籍法に関する勧告的意見
  - 違法な干涉手段
    - ◇ 命令的関与 ?
      - 戦争、武力行使
        - 国連憲章 2 条 4 項
        - 同項により禁止されない武力の場合
          - ◇ ICJ : ニカラグア事件
      - 経済的、政治的圧力
        - 自決権 ?
        - 外交の自由 ?
      - 放送衛星、探査衛星 ?
- 内戦への干涉
  - 自決権重視 → 内戦への不干涉義務 ?
    - ◇ 反徒への援助
    - ◇ 中央政府への援助 ?

II. 国際機構 (国連) と不干渉義務

● 国連憲章 2 条 7 項

- ◇ 「本質上いずれかの国の国内管轄権内にある事項」
- ◇ 但し書き
- 国連総会 / 経済社会理事会 (人権委員会) の決定 → 勧告
- 国連安保理の決定 : 憲章第 7 章に基づくもの → 拘束力

III. 人道的干渉は許されるか?

● 国連安保理の強制措置として行われる場合

- 人権侵害 = 平和に対する脅威か?
- 政権打倒・新政権樹立 = 「国際平和の回復の為に必要な措置」か?

● 個別国家の単独行動として行われる場合 (安保理の承認なし)

- 人権問題は国内管轄事項か?
  - ◇ アジア的人権?
- 合法的な干渉方法?
  - ◇ 武力行使に至らない手段
  - ◇ 武力の行使?
    - 人権保護のための武力行使?
      - 人権保障システムの存在
    - 国連憲章 2 条 4 項違反?
      - 人道的干渉は例外? (憲章規定の拡大解釈)
        - ◇ 通説 : 厳格解釈
    - 違法性阻却事由?
      - 緊急状態・遭難 (人命救助)
        - ◇ 自国民救出?
      - 対抗措置?
        - ◇ 相手国の違法行為とは
        - ◇ 武力による対抗措置の禁止
- ◇ コソボ空爆をどう見るか (安保理の許可なし)
  - 空爆の目的 : 「人道的目的」?
  - 諸国の黙認?
    - 法的根拠によるか?
    - 一般的例外と認めたか? (先例とみなしうるか?)